

国際交流基金助成事業報告書

薬学部 1年次生 M.S

1) 渡航前に考えていた自分の目標

積極的に自分の意見を伝えられるようになる。

2) 1の目標は渡航後どうだったか

自分から話さないと分からないことは分からないままだったので、自然と自分から質問や意見を伝えることができていた。研修中、常に「オーストラリアにいるうちにたくさんコミュニケーションを取らないともったいない」「気になったことは全部聞きたい」と考えていた。想像以上に「積極的に自分の意見を伝えられるようにする」という目標は達成できたと感じている。

3) これからの自分

積極的に自分の意見を伝えて、その分相手の意見もしっかり聞くことで、どのような場面であってもより良い方向へと物事が進んでいくと考えている。さらに、今回が私にとって初めての海外だったが、日本との違いを多く学べたとともに、たった10日間ではあったもののリスニング力やコミュニケーション力が初日と最終日には確実に違い、成長を実感した。英語の勉強が楽しく感じた上にもっと話せるようになりたいと思ったため、学生の間には長期休暇などを利用してもっと長い期間留学したい。

4) TAFE

英語クラス

初めは先生に当てられたり単語のテストがあったりするかなと想像していたが、実際はグループに分かれて様々なトピックを話したり、歌を聞いて歌詞を穴埋めしたりなど、遊び感覚で勉強をして楽しく英語とオーストラリアについて学べた。

他の生徒との交流

私たちが英語クラスを受けた教室と同じ棟の一番奥の教室に、オンライン授業を受けたり休憩できたりする教室があり、そこで様々な国から来た生徒と話すことができた。中には日本人の生徒もいて、ためになる話を聞かせてもらった。

その他

午前と午後も授業の途中にティータイムがあって、休憩したり他の学生と交流できたりした。日本にもこの制度があればいいなと何度も思った。冷蔵庫があって、お昼ご飯やお菓子を入れておくことができ便利だった。

5) ホームステイ

英語を勉強するには一番いい家族だったと思う。他のホストファミリーの話を知ると翻訳機を使うこともあったようだが、私のホストファミリーはゆっくり話してくれた上に、私が理解できなかったらより易しい英語で説明してくれた。特にホストマザーは先生なので説明が分かりやすかった。英単語に関することも質問できた。

少し早めに庭でご飯を食べた時は優雅に感じた。自然を感じてリラックスして話げできた。鳥やイモリの鳴き声が朝から聞こえて、自然に囲まれている感じがして毎日心地よい朝だった。

初日に驚いたのは寝る時間の早さ。ホストシスターは小学生だからか 20 時頃には寝ていた。ホストマザーも 21 時半には寝ていた。その他にもバスタオルの洗濯は週に 1 回。髪を洗うのは週に 3 回（ただし、海に行った日は必ず洗うそう）。この 2 つは本当に驚いた。ホストファミリーも全然違うことに驚いていたし、面白いと言っていた。

6) オーストラリア

自然

紫外線の強さは日本の約 6 倍。だからか、特に疲れるようなことはしていなくても夜に疲れを感じる 때가 多々 あった。

ほとんどの家庭に庭があり、木などの植物を育てていた。分別も「燃える、燃えない」ではなく、「植物、リサイクルできるもの、リサイクルできないもの」の 3 つだった。自然と共存しているように感じた。この部分は日本にも取り入れられることだと思う。海と空の青さが日本より濃いように感じた。キングスクリフやポッツビルは海が近いため車のフロントガラスが潮で白くなっていた。海の近くに行くと潮のおいが濃かった。風も強かったが気持ちいいくらいだった。



動物

日本では見ない動物が多くいた。家の周りにも自然があふれていたため毎日様々な動物を見ることができた。

スーパーマーケット

ホストマザーに「小さいけど近くにスーパーあるから行きたかったら行ってもいいよ」と言われたので行ったが、十分大きくて品ぞろえも豊富だった。



時差

国内でも州によって時差が生じているので、週末明けは時間の間違えに注意しなければならなかった。

7) 交通

信号が少ない代わりに日本ではほとんど見ないロータリー交差点がたくさんあった。待ち時間がない分渋滞はなかった。

スピードバンプというものがところどころにあった。特に横断歩道の手前にあってスピードを一回落とさせる仕組みになっていた。歩行者優先が徹底されていて、信号のない横断歩道がほとんどだったが、そこで待っていると必ず止まってくれた。



8) 最後に

今回わずか10日間という短い期間だったが、とても有意義な時間を過ごせて素晴らしい経験になった。またオーストラリアに行きたいと心から思った。次行くときは長い期間をかけてもっと英語を勉強したい。